


愛の
コケラ
くず



CRIMSON COMICS



それは私が
召喚士になろうと
決心したときの
ことだった……

ねえルールー

大事な話が
あるの……



……

今晚
ルールーの部屋に
行っていいかな……



部屋に入るなり
私はいきなり
口をふさがれた……

もみ

あ

こういうことを
されるのが
初めてだった私は……

もみ

なす術もなく
弄ばれるだけ
でした……

クチュ

クチュ

ギシ

ギシ





.....!

そして
結局...

何も言わせて
もらえませんでした...

ゴキウ
ゴキウ



さあ
ユウナ……

今夜も
かわいがってあげる



それから
十日間
そんな日々が
続きました……

疲れ果てて眠るまで
責められつづけ
起きたらまた
責められる……

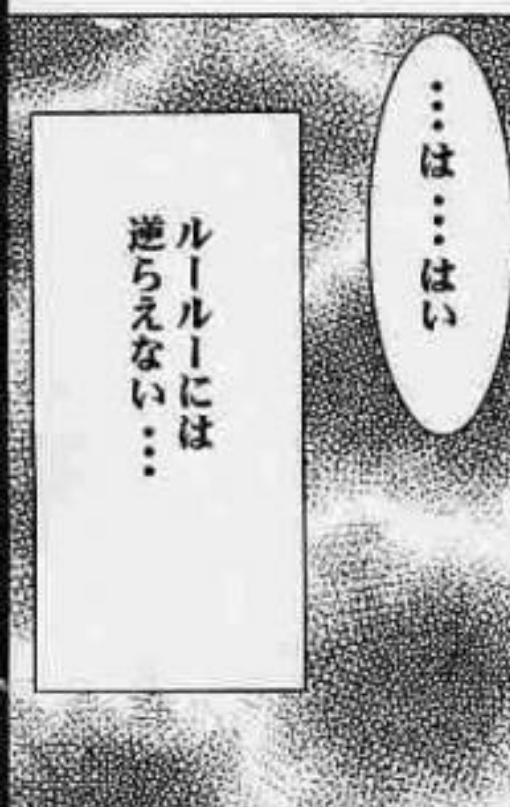


やつ……お願い
ルール……

今日はちゃんと
話を……

スッ

あつ……！





そうそう
いい子ね...

あっ！

びくっ

ギシ

ギシ

今日もとっても
いい気持ちに
させてあげるから



もみ

もみ



やっ!



んっ...



んっ!

ユウナは背中が
敏感ね...

んっ...





今からあと三回
逆らったら
縛るからね



フフフ…
そうそう

大人しくしてれば
いいのよ

もう縛られたく
ないでしょう？

縛られたことが
あった……

以前一度
激しく抵抗
したために

あのときは
酷かった…

体中にクスリを塗られ
なんと絶頂に
突き上げられたか
分からない…

ほあ

ほあ

クリ

フィル

フィル

フィル

プロ

ピタ

ギョ

ほあ

ほあ

ほあ

いや……
思い出したくもない……

グチュ

グチュ

ギシ

ギシ



あっ！



イヤでしょ
……？

……
縛られるのは



抵抗
したわね……

これで
あと二回ね



……





ユウナはただ
私の言うことを
聞いていれば…

そうそう
それでいいのよ

あー!!

ピョチャ

ピョチャ



縛られるの
だけはイヤ…

もうルールに
逆らえない…!!



今は分からない
でしょうけれど

もみ

もみ

もみ

もみ

いつだって
私のほうが
正しかった
でしょう？



...!

グイ



もう手は
おろしていいわよ



ほら
気持ちいい
でしょう？

は……はい……

ぽろ

ぽろ

がる

がる



そのときの私は
それを口にすることが
出来ませんでした

あ

あ



本当は心の中で
やめて おねがいと
叫んでいたのに

あ

あ

あ



いぢ...
ぢめぢ...

...は...



今日はクスリを
いっばい塗ってあげるわ

うれしうでこま...



あッ!



はっ...

アイル

アイル

はっ...

はっ...

はっ...

なあに？

こんなモンじゃ
足りないって？

あ

あ

はっ
はっ
はっ



ほら
体を丸めちや
ダメよ

もっと足を
開きなさい

ああっ！

あつ！

ああつ！

キニキニ

かわいいわ
ユウナ……

でもまだ
イつつちや
駄目よ……

今日もまた
このまま
何も言えずに……

クチュ
クチュ
ドクッ

ダメ……！

どんなに
心では抵抗
していても

あああ!!

グチュ
グチュ

何度も何度も
イカされていた
私の体は……

ルールの指と舌の
いいなりに
なっていました……



あら？

まだイツちや駄目
って言ったのに！

……！

勝手に
イツちやったわね？

これで三回目

言ったでしょ
三回逆らったら
どうなるか……

約束どおり

縛らせて
もらっわよ

えっ……？

だって……
今のは……！

ギシ
ギシ

どうして?

どうして?
ルルル……

いつも
怒ってたけど
優しかったルルル……

大好きな
ルルル……

何でこんなことを……

んんっ!!

もう好きにだけ
抵抗しても
わめき叫んでも
かまわないわよ

ギシ

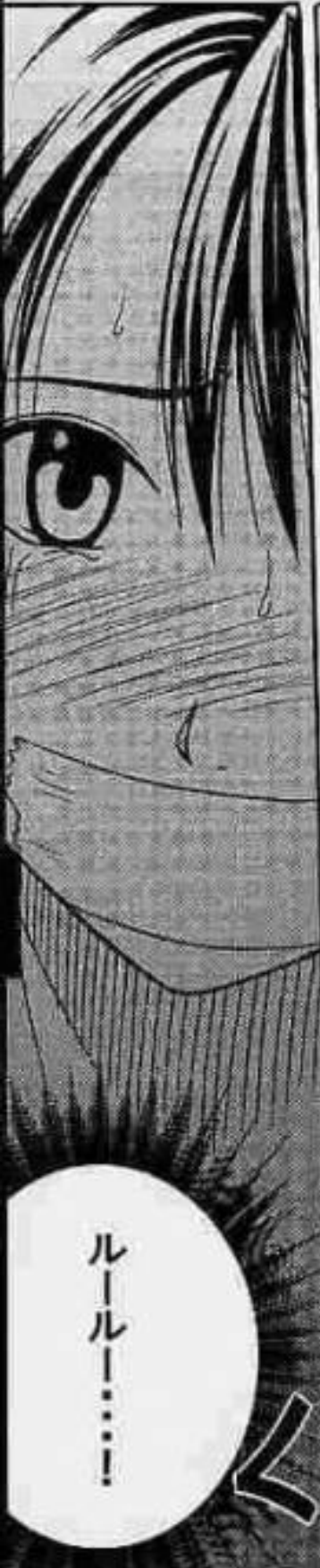
絶対
解放して
あげないけどね

んんっ!!

フフフ…

グ
チュ

フ
フ
フ...





それから数時間のことば
よく覚えていない……

オシリの穴で
イケるなんて

初めてにしては
上出来……

それほどに
激しい責めでした…

ギン

ギン

ん？！！



や...やめて
ルールー...

これ以上されたら
死んじゃうよ.....

ガシ



何言ってるの？

もっと気持ちよく
なりたいんでしょ？



今日はいいい物を
仕入れてきたし



わっ！



あああつ！

アイン



やつ！

これをユウナの一番弱いところにあてるとどうなるかしら？



どう？この機械

触れたところがすごく敏感になるでしょ？

いゃー！

バツ

ギシ
ギシ





やっぱり
触れただけで
イキまくりね

はああつ！

機械の力で
イクだなんて

エポンの教えに
反するんじゃない？

あつ……ツ……
ああつ！

やっ……あ……
あああつ！



その日は

私が気絶するまで
責めつづけられました…

でも…
結局それが最後の愛撫でした…

私……

召喚士になる……

ごめんなさい
ルールー

……
私……
やっぱり……

……

……
そう……

じゃあ
せめて……

あなたのガード
させてね……

後にあのときのことを
「シンの毒気にやられて
錯乱していたの……」
「ごめんなさい……」
と語ったルルル

でもあれは
ウソだと思う……

ルルルはきつと
利那的な快楽の世界で
私を現世につなぎとめようと
したのだ……

私が召喚士になるのを
止めようとしたのだ……

そう思う……





私もそろそろ
人生前向きに考えないとね

クリムゾンコミックス
A 2 5 - 1

召喚士になることを決意したユウナ。それを
告げるために訪れたルールーの部屋でユウ
ナを待ち受けていたのは陵辱の宴だった…。
はたしてルールーの真意は…？

FOR ADULT ONLY